

台東区立桜橋中学校の皆さん

令和6年11月23日
「国際人をめざす会」 河上芳明

11月18日にお話しをさせていただいた河上です。

多文化、多様化、グローバリズムと、あまりふだんなじみのない、少し難しいテーマでしたが最後までしんぼう強く聴いていただいて有難うございました。

全部は理解できなくても、これから先みなさんが生きていく中で「ああ、あの時の話！」と思い当たるのが1つでも2つでもあればうれしく思います。

さて、いくつか質問をいただいていますので回答をさせていただきます。

先日お話ししたように、3往復4往復のコミュニケーションになれば理解も深まると思うのですが、今回は1往復だけ。続きはお友達や先生やご家族とやってみてください。

Q（1）異文化をもつ人々と、より深い話をするために必要なことは何ですか。

A（1）「異文化をもつ人々」と言うと、せまい意味では年齢や住んでいる国や地域の違う人たちを思い浮かべますが、先日お話ししたように皆さんの学校のなかにも、家庭の中にも「異文化」はあふれています。つまり、広い意味では自分以外は全部「異文化をもつ人々」と言えると思います。

「より深い話をする」というのは自分の持っている考えや知識を相手の持っているものと交換しあって、お互いに新しい気づきがあったり確認できることがあったり、という事。これは、いつでもだれとでもできる事ではないと皆さんも思っているでしょうが、それはその通りです。誰でも毎日「深いはなし」ばかりでは疲れてしまいます。

とは言え、自分以外のだれかとわかりあいたいという気持ちはたいていの人が持っている。知りたい、わかりあいたいという気持ちを持っていればふだんの会話の中に「より深い話」につながる糸口はあると思います。もちろんうまく行かないことの方が多いかもしれませんが、でも自分からしかけたり、相手のしかけに乗ったりする中で、ほんの時々でもそういうやりとり、会話ができて、新しい世界が開けたり、相手の知らなかった面が見えたり、自分の考えが確認できたりするのは素晴らしいですよ。

ただ、そのためには準備がいらいます。少し長い（深い？）会話を続けようと思うと自分の考えをしっかり持っていた方がいいですよ。相手の言ってる事や考え方を受け止めるためにもそれは必要です。野球でもしっかりトレーニングして筋力をつけて、打撃の練習をして、相手のピッチャーの事をいろいろ研究すると打率はあがります。それでもせいぜい3割、30パーセントで失敗することの方が多いようですけど、それにめげていたら前には勧めません。ピッチャーの側も同じです。

「異文化をもつ人々」をせまい意味で理解して「外国人」ということになる、基本はぜんぜん変わりませんが、それに加えて違う言葉や相手の暮らしている国や地域についての理解が必要になります。加えて自分自身の住む地域、国の事をちゃんと知ってないと会話はなかなかはずみません。それとももちろん相手と通じ合える「言葉」。外国人と話していて相手の方が日本の文化についてよほどくわしくて恥ずかしい思いをした事が何度かありました。

Q (2) 海外の人が日本に来るグラフは右肩上がりでしたが、日本の人が海外に行くグラフは右肩下がりでした。河上先生はそのことを内向きな日本人が多いと仰っていましたが、私は違う2つの理由があると考えました。1つは経済格差による問題です。もう一つは少子高齢化による問題です。この二つが特に大きな理由であると考えます。このことについて河上先生はどのようにお考えでしょうか。

A (2) 先ず、先日の授業で見てもらったグラフは日本から外国への留学生数が2004年をピークに年々減っている事を示しています。これにはいろんな理由があると思いますが、おっしゃるような経済的な格差、少子化というのも確かに大きな理由だと思います。当然ですが生活費、学費合わせて留学には大きな費用がかかります。今も昔も自分の(家族の)お金で留学できる人は限られていると思います。

さらに企業からの海外大学院への派遣が大きく減っていることも理由の一つだと思います。私の周りの留学経験者もほとんどが企業(公務員も)に就職してから大学院に派遣された人たちです。例えばアメリカの有名大学の大学院では中国や韓国からの留学生が大きく増えている一方日本人留学生の数が大きく減っているという話をよく聞きます。昔は気前よく社員を留学させていた企業が最近そうでなくなった理由はいろいろあると思います。先日の授業で「内向き志向」という言葉を使ったかどうか覚えてないのですが留学だけではなくて単なる海外旅行についても大きく減っているというニュースをよく見かけます。「海外旅行(留学)減少」とかで検索するといろいろ情報があるようなのでみなさんも考えてみてください。

もちろん、ここ数年については大幅な円安(ドル高)も影響していると思います。4年前に105円だったドルが今は155円です。これがどんな風に影響するのかもついでに考えてみてください。

Q (3) グローバル化の取り組みは、現在世界全体でのSDGsのようにプロジェクトとして行われているのでしょうか。

A(3) まず、SDGsというのは2015年に国連で決められた、貧困、健康、教育、性的平等、気候変動など17の項目からなる国際目標です。世界全体が持続可能な（このままほうっておいたらどこかで行きつまる）成長を目指すようにと国連が中心になって進めている活動（プロジェクト）です。それぞれに国や企業もそれにそっていろいろな取り組みを行っています。これに正面から反対するのはなかなか難しいですね。

それに対して、「グローバル化」というのは誰が言いだしたとか動き始めたとかいうことではなく、自然にそうなってきたという大きな違いがあります。

1970年台ぐらいから交通（特に飛行機）や通信（インターネット）の急速な発達で世界の距離が縮まりました。その結果、トヨタ自動車の例でお話ししましたが、簡単に言えば知識や技術のあるところで計画して、少しでも労働力や材料の安いところで作って、少しでも高く売れるところに売るということを、国境をまたいでするようになった。そうしないと企業は競争に勝てないということなのです。カニカマの生産量世界一がリトアニアというのも似たような理由です。安くて質のいいもの（サービス）を作れば（提供すれば）世界中で売れる、結果スターバックスやユニクロが世界中に展開することになります。その反面、地元の喫茶店や洋品店はなくなり、アメリカや日本にあった工場が安い労働力を求めてメキシコやアジアに出て行って国内で仕事がなくなるというような問題も発生します。

今度のアメリカの大統領選挙でトランプ氏が選ばれたのにはそういうことも背景にあったと言われています。ただ、先日もお話ししたように、グローバル化は立場によっていい面も悪い面もありますが、なかなか後戻りできない、しかも皆さんにとっても身近な問題だという事は心にとどめておいてください。

以上